









A



B →



















銀狼の体も素敵に成長したね
開拓者もきっと気に入るはず

.....

いいですね
とても可愛いです

ふるん

むいっ~

グルグル





んっ...これで終わりだなんて思わないでよね、悪い子

ママの体にもっと入れて...いいでしょう?

Kafka 1
Silver Wolf 1

銀狼の体から引き抜いたばかりのあなたのペニスを、カフカはすぐに口に含んだ。その巧みな舌使いに、あなたはすぐにまた硬くなった。



ちんちん...最高...ああ...一番奥まで突かれてる

Kafka 2
Silver Wolf 1

あなたがカフカの体の中で突き続けている間、銀狼は隣で羨ましそうな目で見ています。



また...また入ってきた...あ...うわあ...もっと太くなってる

あ...だめ...撮らないで...恥ずかしくてイっちゃ

Kafka 2
Silver Wolf 2

あなたは銀狼の体全体を持ち上げてからペニスを挿入した。二度目に彼女の体に入った時、彼女はすぐにオーガズムに達した。



気持ちいい?タマタマの方もマッサージしてあげるね

Kafka 3
Silver Wolf 3

銀狼はもうフェラにすっかり慣れていて、さっきまで処女だったとは想像もつかない。カフカが巧みな舌使いであなたのアナルを舐めると、あなたのペニスは全く萎えることができなくなった。



またイっちゃう、種付けされるところ見られちゃう

Kafka 5
Silver Wolf 4

はあ...あっ...中出し潮吹きしちゃうう...

あなたとカフカはベランダで無防備にセックスし、通りすがりの人々に丸見えになっている。銀狼のマンコはローターが挿さったままで、あなたが再び挿入するのを濡らしながら待っている。



あら、まだやってるの? 銀狼のまんこはそんなに気持ちいいの?

Kafka 5
Silver Wolf 8

ああ...ああん...またおまんこ突かれてる...バカになっちゃう...ああん

あなたと銀狼は動物のように絶えず交尾し、昨日まで未経験だった彼女はすでにオーガズムの喜びに溺れている。カフカはシャワーを浴び終え、再び戦いに加わる準備をしていた。

銀狼の脚の間にはあなたが注ぎ込んだばかりの種付けミルクがまだ残っており、愛液と混じり合って太ももを伝って滑り落ちていく。カフカが銀狼の上に跨り、再び脚を広げると、洗い清められたばかりの肉穴が震えながらわずかに開閉し、蜜が溢れ出てくる。

こちらの二つの小穴...
まだどちらも使えます
よ、開。拓。者

それとも...まだ使っていない
残り二つの肉穴がいいですか?
うふふ

オナホールになっちゃった

は

ビクッ

だ...だめえ...これ以上
やったら...おちんぼの
奴隷になっちゃう...

は
は

ぬる、ぬる

B →

とろ

とろ

目の前にある四つの肉穴を前に、あなたの頭は真っ白になる。すでに十数回も射精した肉棒が再び硬く勃ち上がった。まさかこれが...開拓の宿命なのだろうか?

今夜のあなたは、「開拓」よりもっと刺激的な娯楽を試すことにした。スマホで注文してから、そう時間も経たずに部屋のチャイムが鳴る。え…？このコスプレ、リアルすぎる…そう思った瞬間、何かがおかしいと気づく。ま、まさか…本物…！？

あらあら……開拓者さんにも、そんなイケナイこと考える余裕があったのね。

Kafka
002

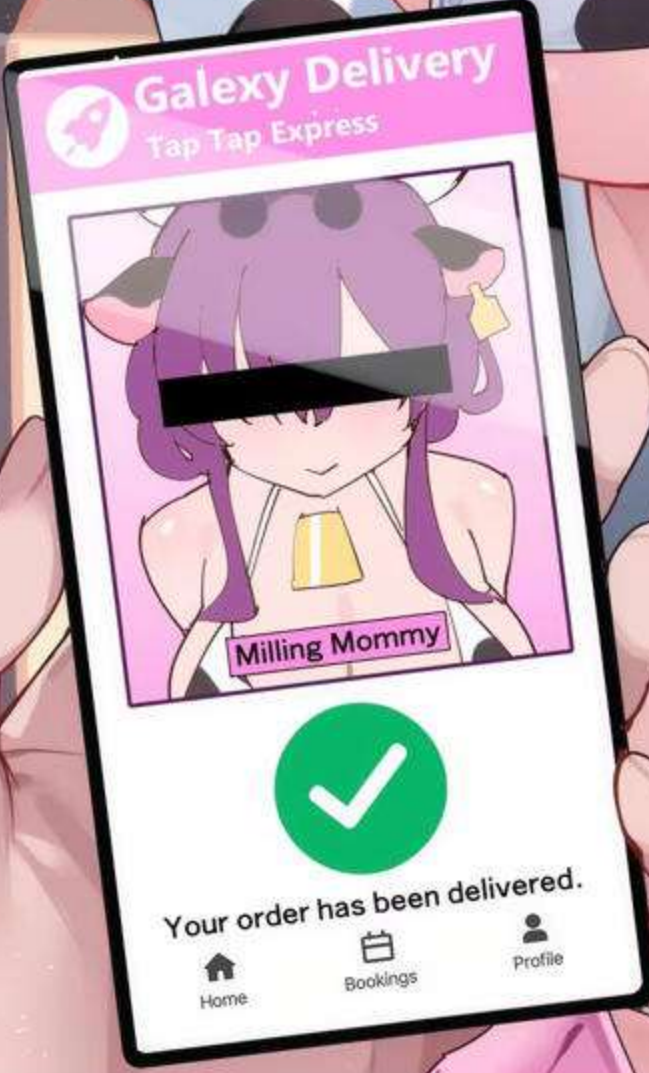
カフカはふっと眉を上げ、赤い唇を楽しげに歪める。まるで面白い獲物を品定めするかのよう。

まだホタルのアイコ

ドク

ドク

たん



やっぱり銀狼の読みは正解ね。こんな畏、あっさり引っかかっちゃうなんて、ふふっ。

「引っかかる」という言葉をわざと強調しながら、彼女は視線をゆっくり持ち上げ、あなたの目をじっと見つめる。唇の笑みはさらに深まっていく

カフカは滑稽に見える服装をしているにもかかわらず、あなたの視線は彼女のしなやかな体に釘付けになった。薄い生地は汗で濡れ、ライトの下で乳首と陰唇のわずかなピンク色が透けて見えた。

びりり

安心して、今夜起こったこと...全部ホテルには秘密にしてあげる♡

カフカはそう言いながら、アプリの確認ボタンを押した。あなたの集中した視線につれて彼女の乳首は徐々に突き出し、顔もわずかに熱を帯びる。あなたは抑えきれずに、その母性に満ちた柔らかい双峰に手を伸ばした。

あら...悪い子ね...そんなにママのミルクが欲しいの?♡♡♡

そう言いながら、彼女は手を上げてあなたの手首をそっと撫でる。拒絶はせず、まるであなたの不埒な行いを黙認しているかのようだ。

ママが一番好きだよ
ママは悪い子

ぴちゅ♡
あや♡

ぴちゅ♡

ブルブル♡

あらあら...どうやら...悪い子ちゃんは想像以上に欲しがりたいね?♡♡

じゃあ、ママが"大きく"してあげるね...うふふ

た♡

あなたの指先が彼女のビキニのボトムのエッジに引っかかり、最後の覆いを引き下ろす。柔らかな割れ目は湿った愛液で濡れており、ビキニが滑り落ちると、両脚が自然に開かれ、濡れた入り口が見え隠れする。透明な筋が太ももを伝って滑り落ち、空気中にはカフカ特有の母性の香りが漂う。

カフカのすぐ後ろにいたのは銀狼だった。どうやらあなたのスマホはいつものようにハッキングされているようだ。彼女は非常に個性的なスタイルの水着を着ており、ぴったりとした生地が若々しく引き締まった体のラインを際立たせている…今まで気づかなかった。

あ…気にしないで。カフカについてきただけだから。

銀狼は少し首を傾げ、あなたの全身に視線を走らせる。相変わらずの仏頂面だ。

別に来なくて

ドキ
ドキ
ドキ

ドキ
ドキ
ドキ

ぽっ♡

ムキッ

あ…この水着…カフカに無理やり…とにかく勘違いしないで。



銀狼の引き締まった胸はカフカほど大きくはないが、彼女ならではの魅力を感じる。水着のボタンのデザインは、まるであなたを誘っているかのようだ。あなたは無意識に彼女に手を伸ばし、ボタンを押した。

不意を突いて、あなたはその薄い布を素早く引き上げる。銀狼の小ぶりの胸が弾むように現れる。カフカの豊満な体つきとは違い、彼女の胸は引き締まり、輪郭がはっきりしている。乳首と乳輪の比率は小さいが、意外なほど精巧だ。冷淡なふりをしているが、人を罪に誘うような魅力を隠しきれていない。

おい…ちょ、ちょっと待って…誰が勝手なことしていいって言ったの？

や…やめて♡
カフカ

カフカ♡

銀狼はあなたの手を掴んでいるものの、気で止めようとはしていない。小さく整った胸が丸見えになっている。

モジ♡
モジ♡

ブル♡
ブル♡

…ちっ、カフカほど…大きくないし…あんたは…好きじゃないでしょ…ふん

銀狼の耳はすぐに赤くなり、その口調は明らかに動揺している。ぷくっと膨れた頬に、あなたは胸が高鳴る。

不意を突いて、あなたはその薄い布を素早く引き上げる。銀狼の小ぶりの胸が弾むように現れる。カフカの豊満な体つきとは違い、彼女の胸は引き締まり、輪郭がはっきりしている。乳首と乳輪の比率は小さいが、意外なほど精巧だ。冷淡なふりをしているが、人を罪に誘うような魅力を隠しきれていない。

カフカはあなたを優しく寝かせ、その雪のように白く柔らかい乳房を近づける。溢れ出した母乳が乳首の隙間から流れ出し、乳首があなたの口元に寄せられると、甘い乳汁が口の中に流れ込み、あなたのペニスもそれに合わせて勃起する。

ん〜いい子ね〜好きなだけ飲んでいいのよ〜悪い子

カフカは授乳しながら、手慣れた手つきであなたの硬くなったペニスを扱く

ちっ…こうやるのか？
変な動きするな…

お…大きい…全部は入らない…

いい子だね♡

はまは

別に好きじゃないし♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

しゅ♡
しゅ♡

ちゅ♡

銀狼はごこちなくあなたのペニスの先端を咥え、カフカのリズムに合わせて上下に奉仕しようと試みる。カフカの母乳には特殊な香りがあり、飲む量が増えるにつれて、あなたのペニスはさらに大きく膨れ上がる。銀狼は懸命にペニスをその小さな口に入れ、あなたの亀頭から出る汁をすべて飲み干した。

カフカがあなたの腰に跨り、濡れた花弁が膨張した陰茎に密着して前後に擦り付けられる。愛液と体温が混ざり合い、性器全体が滑らかな感触に包まれる。亀頭が時折入り口を掠めるが、穴口に押し当てられても、その大きさをゆえにスムーズには挿入できない。

あら…そんなにママの蜜壺に入りたいの？

ああ…クリちゃん…触らないで…

そんなに大きいの？

はい

あー

やめなさい

ピクッ

あー

ぷるぷる

めっちゃ

めっちゃ

ぐちゃぐちゃ

カフカの濡れた豊かな花弁があなたの肉棒の根元を挟んでこすりつける。愛液はすでにあなたの男根を濡らし、淫らで粘り気のある水音が部屋に響き渡る。

銀狼の秘部があなたの目の前で露わになり、少女のピンク色の秘裂は微かに赤く腫れ、愛液が汗と混じり合い、震えと共に滑り落ちる。クリトリスはあなたの舌先による刺激で発情して大きく膨らみ、蜜の穴から愛液が絶えず溢れ出し、あなたの顔を伝って滑り落ちる。その味は青っぽさの中に甘い香りが漂う。

カフカがゆっくりと腰を下ろし、肉棒が体重と共に滑り込むように入っていく。濡れた蜜壺があなたの陰茎を完全に飲み込み、彼女の柔らかな子宮頸に突き当たる。蜜が結合部の隙間から噴き出し、愛液があなたと彼女の下半身に飛び散り、粘り気のある香りが広がる。

ああ…おちんちん…おくまですっかり入っちゃった…すごい…

んやが…こいし…開けられちゃった♡

舐めないで♡

ちょ…ちょっと待って…誰が舌を入れていいって言ったの…

カフカの体が震え、あなたが挿入したことで蜜穴が広げられ、その脈動が伝わってくる。挿入しただけで射精してしまいそうだ。

どう?ママの小穴は好き? こうすると気持ちいい?

あなたは口で銀狼の外陰部を優しく包み込み、カフカのリズムに合わせて舌先を銀狼の蜜壺の奥深くまで進める。大量に分泌された愛液は甘く美味しい。カフカの淫靡な言葉と銀狼の甘い喘ぎ声が重なり、三人の体は絡み合い、互いの器官を悦ばせている。

カフカの騎乗のリズムはますます速くなり、柔らかな穴口が打ち付けるたびに激しくひくつき収縮する。愛液が衝撞音と共に絶えず飛び散り、下腹部と太ももを濡らす。あなたの肉棒は子宮頸にぶつかるたびに、言葉にできない快感が伝わってくる。

ママの中に射精したい？
したいの？ 射精するの？

♡ いいわよ♡

や、やめて…カフカ…
そんなことしたら私も…

はあん射…射精して
全部ママに♡
♡ ちょうだい

カフカの絶頂と共に、彼女の甘い母乳が絶えず溢れ出し、まるであなたを養うかのように愛情に満ちている。

おしっこ…出ちゃった…
き…気持ちいい…

カフカの蜜壺が狂ったように収縮し、あなたの亀頭が固く締め付けられる。あなたはもう一秒も我慢できない精液を、彼女の子宮腔内へとすべて噴出する。過剰な精液は彼女の蜜と混ざり合って逆流し、結合部の隙間を抜けて外へと噴き出す。



あら…銀狼ちゃんのこっちも…もう準備万端みたいね♡♡

あなたは肉棒をカフカの蜜壺から引き抜き、銀狼は勢いでカフカの腕の中に倒れ込む。あなたが彼女の細い足首を掴むと、絶頂を経験したばかりの蜜穴がライトの下でさらに誘惑的に見える。あなたはまだ少し精液のついた肉棒を彼女の穴口に押し当て、入る角度を探る。

壊れちやうよ

はーあ♡

ふ…ふざけないで…こんなもの…入るわけないでしょ

ビクッ

ビクッ

もし私を壊したら…弁償できないんだからね…!!

銀狼の少し慌てた表情がますます可愛らしく、頬を赤らめ、口では強がって反論しているが、両脚は正直に自然と開いている

むはっ

ぴらっ♡

カフカは銀狼をなだめながら、手で銀狼の絶頂で硬くなった乳頭を弄ぶ。銀狼はまだ収まらない絶頂で震え続けている。

あなたの性器が銀狼の濡れた花卉にゆっくりと滑り込む。入り口は愛液ですでに開いており、内部は緊密で柔らかく、これまでにない包容感が伝わってくる。少し浅い蜜穴はあなたの巨大な根元を飲み込むことができず、あなたが少し前に突き出すと、子宮頸があなたの亀頭にキスをし、銀狼をあなたの女に変えた。

はっ…入った…体の中が…押し広げられてる…

く、苦しくない…ただ…変な感じ…太くて…熱い

銀狼は唇を噛み、両脚は無意識にさらに開き、花卉の入り口が微かにひくつき、濡れた液体が絶えず滲み出ている

ん〜これで銀狼も本当の女になったわね

カフカは銀狼の腰をそっと支え、あなたたちの結合の角度をよりスムーズにする

銀狼の穴口から「ぷちゅ、ぷちゅ」と淫らな音ができる。カフカの柔らかく母性的な乳房が銀狼の上に乗る、先ほど分泌された乳汁が銀狼の赤らんだ頬に滴り落ちる。銀狼の体は二重の刺激で震え続け、快感が彼女のすべてを征服するのに身を任せている

あなたは銀狼の体内で出し入れするリズムを速める。子宮頸があなたの衝突と繰り返されるキスで「ぼぽっ」という音を立て、まるであなたの強い精子を求めているかのような。あなたは銀狼の内壁が絶えず収縮し、蜜の分泌がさらに盛んになるのを感じる。彼女は無意識にあなたに合わせて腰を揺らし、もはや体も心も、完全にあなたに帰属しているようだ。

えっ?? 初めてで中出し??...も...もういい...射...射精して

銀狼の両脚は激しい衝突で震え続け、腹部が微かにひくつき、愛液が激しい喘ぎ声と混じり、ほとんど我を失っている

はあん...中出しされながら...いった...

アッあぁあぁ!

初回の中出しオーガズム

ピクッ

どぶ

どぶ

ピクッ

あなたの性器が銀狼の体内で極限まで膨張し、亀頭の先端が子宮に貫入する。濃く熱い精液が根元からほとばしり、惜しみなく銀狼の子宮腔を満たす。男性の匂いを感じた子宮は制御不能に収縮し、震え、食欲にあなたのすべてを飲み込む。二人の体の間の濡れた粘り気のある音は、絶頂全体を混沌としながらも甘美なものにした。